

平成29年度 第1回校内研  
 「数学科」 授業のデザイン

授業者：東 喜久子

- 1 日時 平成29年 6月6日 (火) 第5時間目  
 2 学級 9組  
 3 題材 (単元) 連立方程式の利用  
 4 本時の授業  
 (1) 目標  
 問題解決のために連立方程式を使って解こうとする。

(2) 流れ

生徒の学習活動と主な意識の流れ	支援 (◇) と見取りの姿 (◎)
① 本時の課題と流れを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">問題から数量の関係を見つけ、式にしよう</div>	◇連立方程式の応用問題を解く手順を確認する。 ◇時間・速さ・距離の公式を確認する。 ◇考えがまとまらない場合には、ヒントカードを用意し、助言する。 ◎数量の関係を絵や図、表などを用いて把握しようとしているか。
② 基礎の課題 A地点から150km離れたC地点まで行くのに、途中のB地点までは時速40km, B地点からは時速60kmの速さで進んだところ, 全体で3時間かかった。AB間の距離, BC間の距離をそれぞれ求めなさい。	◎基礎の課題を元にして 問題から数量関係を把握するために、言葉や絵、図、表を用い、立式しようとしているか。 ◇「始めてから終わった」と「終わってから始める」とで考え方が違うことを助言する。
③ ジャンプの課題 長さ170mのトンネルに入り始めてから出終わるまでに15秒かかる電車Aが、速さが秒速20m, 長さが90mの電車Bと出会ってからすれちがい終わるまでに5秒かかった。電車Aの長さとして速さを求めなさい。	◎基礎の課題を元にして 問題から数量関係を把握するために、言葉や絵、図、表を用い、立式しようとしているか。
④ まとめ ・時間・速さ・距離の文章問題の振り返りをする。	

- (3) 「学び合い」をどこでどう生かし深めていくか  
 ・基本的に教師との1対1の授業となる。中で積み上がっていないところも多いため、操作的学習に対しての支援を要する部分があり、興味関心を持って取り組み意欲を引き出し、考え活動やICT機器を取り入れることにより、考えたいと考えることを聞き出しながらすすめたいと考える。